奄美大島の母子関係の田研式検討

寺脇　保、木場道子　（鹿児島大学小児科）

まえおき

子どもの心身の健全な発育に大きな影響を与えるのは、母親であることは古今東西の真理である。その母親と子どもの関係は、地域特殊性の中にありながらも、時代の変化とともにかわってきている。結婚をして家庭に閉じこもり育児と家事にのみ専念する母親から、社会的に活動したり職業に従事する母親への変遷はその数を増しつつあり、子どもにとって母親の位置も変りつつあることも当然であろう。封建性の強いと言われてきた鹿児島県も例外ではない。鹿児島は離島が多く、そこには古い日本の母子相互関係の原型が残されているかもしれないとの考えから、私どもは奄美大島の小学校でアンケート調査および田研式親子関係診断テストを実施した。その全体的集約をここに報告する。

対象・方法

対象は、笠利小学校127名(男68・女59)、田検小学校73名(男37・女36)、阿木名小学校 43名(男 18・女25)、の計243名(男123・女120)、の学童(4,5,6年生)とその母親とした。非地元出身者および両親がそろっていない者は対象外とした。

方法は、学童に対しては児童用田研式親子関係診断テスト(回収率100%、有効数243)を、母親に対しては親用田研式親子関係診断テスト(回収率91.5%、有効数227)と、私どもが作成したアンケート(回収率91.1%、有効数207)を用いて調査した(表 1)。

結果および考察

アンケートの結果より奄美大島の家庭の様子を統計的にみてみると、67.1%は核家族であり父親の最も多い年令は40代で51.2%、母親の最も多い年令は30代で66.2%、子どもが3人以上いる家庭が76.8%であった。

母親の56.0%は仕事に従事しており、その71.6% は機織りであった。そのうちの41.6%は分娩直前まで機を織り、31.9%は産後6週未満で機織りを始めていた。

48.8%は母乳栄養を行い、乳児期に託児所や祖父母に預けられる子どもは19.8%にすぎなかった。子どもたちは3〜4才になると98.1%が保育園や幼稚園での集団生活を始めていた。

学歴は、父親は中学卒が最も多く51.7%、母親も中学卒が最も多く69.6%であったが、94.2%の母親は子どもには高校以上の教育を望んでいた。しかし、学習塾に通う子どもは3.4%にすぎなかった。

学童になると、82.6%は簡単な家事の手伝いをしていた。

乳幼児、学童期を通じて、66.0%の母親は子どもの世話を十分にしているという意識があり、また、77.3%は子どもについての心配事を持たなかった。母親の59.4%は自分の子どもを素直な子と評価していた。母子間の対話があると答えた母親が87.4%、親子関係がうまくいっているとおもっている母親が94.7%であった。

父親も乳児期より育児に協力的態度を示しており、しつけに対しても93.2%が関心を持っていた。

このようにして、忙しい日常生活の中にも、母と子、父と子の交流が十分になされ、家族の絆がしっかりとしていると推測された。

次に、田研式親子関係診断テストの結果を図1に表わした。この図は、母親と子どもが、干渉・支配・溺愛・過保護・拒否の5領域におい

て、それぞれの態度を感じとっている者のパーセントを示している。グラフが中心部に近づくほど多くの者がそれを感じ、母子関係が望ましくないことを意味する。また、母子間の認知のズレが大きいほど両者に不一致感が存在するということになり、やはり、母子関係が望ましくないことを意味する。

右図は、離島を除く鹿児島県内の小学校の、左図は奄美大島の結果である。両者を比較すると、奄美大島の母子関係は母子間の認知のズレが小さく、全体的にバランスがとれていて、母親が自認しているようにうまくいっているといえる。

さらに、奄美大島の母子関係を、母親の就労の有無、年令、栄養法、子どもの性別、出生順位の5つの観点について少し検討を加えてみた。

母親が就労している群105名と非就労群92名の母子関係の全体像を比較した(図 2)。非就労群では就労群よりも母子間の認知のズレが小さく、就労群では23%の子どもは母親に干渉的態度を、24%の子どもは拒否的態度を感じていた。就労群の71.6%は家内工業である機織りに従事しているが、専業主婦と比べると子どもとの接触時間が制約されるし、母親側にも心のゆとりを欠くと考えられる。母親の就労が母子関係に影響を及ぼすのは当然の結果といえる。

母親の年令により、30代以下の群136名と40代以上の群58名の母子関係の全体像を比較した(図 3)。30代以下の群の方が母子間のズレも小さく、全体的にバランスがとれている。40代以上の群では過保護と拒否の領域で逆の方向に母子間のズレが認められる。

一般的に、母親は子どもの将来のためになることならばと細かいことにも気を配り、できるだけの世話や助力を与えているつもりなのに、子どもの方では、これをむしろ母親側からの強制あるいは要求の押しつけというように感じ、不満に思う場合が多いようである。この気持ちのズレが母子間の感情の行き違いとなり、子どもの側からすれば、自分に対する愛情が感じられず、母親の自分に対する拒否的態度となって受けとめられるようである。

奄美大島では、40代以上の母親群ではこのような気持ちのズレが30代以上の母親群よりも大きい傾向にある。

一方、30代以下のは母親群では、対象児の50.4%が第1子であり、40代以上の母親群では、対象児の83.8%が第3子以降であり、第1子は4.4%にすぎなかった。従って、この場合の差異は母親の年令だけでなく、子どもの出生順位も1つのファクターとして働いていると考えてよい。出生順位については、後で述べることにする。

母乳栄養群98名と人口栄養群39名の母子関係の全体像を比較した(図 4)。母乳栄養群の方が母子間の認知のズレが小さく、人口栄養群では干渉と拒否の領域で逆の方向に母子間のズレが認められる。

母乳栄養と人口栄養では、その後の新生児の行動に差があることは、前川らの研究で、すでに証明されている。breast feedingとbottle feedingの新生児に及ぼす影響の相異は、哺乳の際の口唇感覚、哺乳に要するエネルギー、抱かれているという満足感、母親のもつ授乳時の感覚と児への働きかけなどいくつかの要因から成り立っていると考えられる。言い換えれば、母乳そのものが新生児の行動に影響を及ぼすだけでなく、“母乳行動”という母児のかかわり合いも新生児の行動に影響を及ぼすといえる。そして、この母乳行動は、後になって学童期の母子関係にも少なからず影響を及ぼしているといえる。

男児群106名と女児群107名の母子関係の全体像を比較した(図 5)。女児群では男児群に比べて母子間の認知のズレがほとんどなく、理想的なプロフィールを示している。男児群では、男児の30%は母親に干渉的態度を、21%は過保護的態度を感じている。

乳幼児の行動における性差や乳幼児の性別に対応した母親行動にみられる差異は、数多くの

研究によって報告されている。例えば新生児の場合、男児は女児に比べていら立ちやすくなだめにくいこと。幼児が泣きぐずった後では、母親は女児の方が男児よりもなだめ易いこと、幼児の場合、女児と母親の組合わせの方が男児と母親の場合よりも互いに多くの会話をかわしており、母親も女児の言語行動を促し励ましているといった相違が認められている。これらの事実から、母親にとって男児は女児に比べて育てにくいことが予想される。

また、男児と女児では、こうあって欲しいという理想像が違い、それに従ってしつけがなされることが多い。子どもは幼い頃から男の子は男の子として、女の子は女の子らしく行動することが期待されている。男の子は父親のように、女の子は母親のようになることが期待され、家庭での密接な接触を通して、子どもは手本との適切な同一化を目ざすのである。このような性役割行動の獲得の過程にある子どもたちを考えると、必然的に母親に対する態度に性差が現われるとみてよいのではないだろうか。従って、男児と女児において母子関係に相違がみられるのは、正常な姿であろう。

第1子群61名と第2子以降群129名の母子関係の全体像を比較した(図 6)。第1子群の方が全体的にバランスがとれているようだ。第2子以降群では、24%の子どもは母親に干渉的態度を、22%の子どもは拒否的態度を感じている。

母親にとって最初の子どもの出生はきわめて大きな出来事であり。従って、期待感も大きく可愛がり方も一段と強いものと思われる。母親は子どもの少しの徴候にも反応したり、まれ試行錯誤的な育児態度で子どもとかかわり合っていくと考えられる。これに対して、第2子以降になると、育児に対して細かな心配をすることが少なくなり、母親の気持ちにゆとりが出てくる反面、子どもとの社会的・情緒的・また養育的な交互作用に費やす時間が少なくなっといわれている。シアーズらの研究によ子どもをもつことの喜びはすでに有している子どもの数に伴って減少していること、子どもの数がふえるに従って、子どもに対する親の熱意や関心が急速に低下する傾向にあることが確かめられている。以上のことより、出生順位は母子関係に大きな影響を与えるようであるが、奄美大島においてもそのような傾向にあるといえる。

むすび

以上、調査成績を述べたが、奄美大島の母子関係を要約すると、

Ⅰ　アンケート調査では、経済的にあまり恵まれず、育児に対する学問的知識も豊富ではないようだが、母と子の絆がしっかりしているようであった。

Ⅱ　田研式親子関係診断テストにより、母子関係を大局的にみると、奄美大島の方が、離島を除く鹿児島県よりも、母子間の認知のズレも小さく、全体的にバランスがとれていた。

Ⅲ　母子関係に影響を与える因子は多種多様であり、それぞれが複雑に干渉しあっており、簡単に結論づけることは難しい。私どもは、5つの観点より奄美大島の母子関係を検討し、次のような結果を得た。

1．母親の就労
非就労群の方が就労群よりも母子関係が望ましい。

2．母親の年令
30代以下の群の方が40代以上の群よりも母子関係が望ましい。

3．栄養法
母乳栄養群の方が人口栄養群よりも母子関係が望ましい。

4．子どもの性別
女児群の方が男児群よりも母子関係が望ましい。

[illegible]の出生順位
第1子群の方が第2子以降群よりも母子関係が望ましい。

文献

1)寺脇　保:育児の原点. メヂカルフレンド社(東京), 70-71,1977.

2)鹿児島県大島支庁総務課:奄美大島の概況. 8, 1984.

3)島田俊秀,久留一郎,古川義和:鹿児島の子どもと親の生活と意識調査報告書. 鹿児島子ども研究センター、85-87,1981.

4)坂本昇一,小林　登,詫摩武俊ら:現代の家庭教育－乳幼児編－.文部省,78-81,1984

5)前川喜平:母乳栄養の新生児行動に及ぼす影響と乳児気質.周産期医学,13:1921-1926, 1983.

6)寺脇　保,馬場一雄,中尾　亨,鈴木　栄:母子相関の医学.小児医学,12:823-829,1979.

7)大西誠一郎:親子関係の心理.金子書房,54-58,1973.

8)小嶋謙四郎:乳児期の母子関係. 金子書房、151-154,1981.

資 1　母子関係調査のためのアンケート

このたび厚生省より、全国的規模で母子関係調査の依頼があり、その一環として鹿児島大学医学部小児科学教室でも鹿児島県内の母子関係の実態を調査することになりました。そのための資料として、日常生活のことについて、お母さんに若干おたずねしたいと存じます。

何人の秘密は固く守り、御迷惑はおかけしないように致します。

御多忙の所、誠に恐れ入りますが、御協力の程、宜しくお願い申しあげます。

なお、別紙の個人式母子関係検査テストにも御記入の上、当アンケートと一緒に添え付けの封筒の中へ入れ封印し、学校へお出し下さるようお願い致します。

鹿児島大学医学部小児科学教室
寺嶋　孝・本場道子
〒890　鹿児島市宇宿町1208－1
電話　0992－64－2231　内線2171，2172

（　）内は該当するものを○でかこみ、その他は適当に御記入下さい。

対象となる子どもさんの学年は小学何年生ですか。（　　年生）

1　御家族について伺たずねしたいと思います。

(1) 御両親について御記入下さい。

	年令	職業	最終学歴	健康状態	地元の方ですか。
父					（ハイ，イイエ）
母					（ハイ，イイエ）

（注）健康状態の欄はもし御病気の方がいらっしゃれば、病名まで御書き下さい。）

(2) 子供さんについて御記入下さい。

子供さんは何人いらっしゃいますか。（　　人）

	年令	性	学年または職業	最終学歴	健康状態
1					
2					
3					
4					
5					
6					

対象となる子供さんに○をつけて下さい。

(3) おじいちゃん，おばあちゃんが同居していらっしゃいますか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方は下の表に御記入下さい。

	年令	父方または母方	職業	最終学歴	健康状態	地元の方ですか。
1		（父方，母方）				（ハイ，イイエ）
2		（父方，母方）				（ハイ，イイエ）

(4) その他に同居人がいらっしゃいますか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方は人数および続柄を御記入下さい。（　　人）

続柄（　　）

(5) 子どもさんの両親，祖父母の代に血族結婚がありますか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方は具体的にお書き下さい。（例えば，お父さんとお母さんがいとこ同士など）（　　）

2.(1) 入浴の時，男性が先に入るという習慣がありますか。（ハイ，イイエ）

(2) 洗濯の時，男性のものと女性のものとで使う容器や干す場所を区別なさいますか。（ハイ，イイエ）

(3) 食事の時，男性と女性とで食事の内容や盛順や，食べる順序などに差をつけるということがありますか。（ハイ，イイエ）

(4) お宅の御帯主はどなたですか。（父，母，祖父，祖母，その他（　　））

(5) 生活費は主にどなたの収入でまかなわれていますか。（父，母，祖父，祖母，その他（　　））

(6) 生活費の管理はどなたがなさいますか。（父，母，祖父，祖母，その他（　　））

3. 対象となる子供さんの妊娠中の生活についてお答えください。

(1) お仕事をおもちでしたか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方は仕事の内容といつ頃まで仕事をされたか御記入下さい。

仕事の内容（　　）

妊娠（　　）ヵ月頃まで

(2) お産はどこでなさいましたか。（自宅，病院，産院，その他（　　））

(3) 産後どの位たってから食事を始めましたか。（　　）日後

(4) 産後，お仕事をおもちになりましたか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方は仕事の内容とまた，いつ頃から仕事を始めたかを御記入下さい。

仕事の内容（　　）

産後（　　）ヵ月頃から

4. 対象となる子供さんの現在までの育児について御記入下さい。

A．乳児期（出生から満1歳頃まで）

(1) 栄養法

（母乳，人工乳，混合，その他（　　））

(2) (1)で母乳または混合と答えた方は母乳をいつ頃までりえましたか。

（　　）ヵ月頃まで

(3) その頃お仕事をお持ちでしたか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方は具体的に仕事の内容を御記入下さい。

（　　）

(4) 託児所やおじいちゃん，おばあちゃんにまく子供さんをあずけましたか。（ハイ，イイエ）

(5) その頃，育児の相談相手はどなたでしたか。

（病院，父，医者，近所の人，保健婦，その他（　　））

(6) 授乳，おむつ換え以外に子供さんの世話が十分にできたと思いますか。（ハイ，イイエ）

B．幼児期（1歳から小学校入学前まで）

(1) その頃，お仕事をおもちでしたか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方は具体的に仕事の内容を御記入下さい。

（　　）

(2) 育児の相談相手はどなたでしたか。

（母父母，父，近所の人，医者，保健婦，保育園・幼稚園の先生，その他（　　））

(3) 保育園または幼稚園に通園させましたか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方は具体的に，何年通園させたか御記入下さい。

保育園（　　）年

幼稚園（　　）年

(4) その頃，子供さんの遊び相手が十分にできたと思いますか。（ハイ，イイエ）

"イイエ"と答えた方はなぜ十分にできなかったとお思いですか。

（　　）

(5) 幼児期，子供さんのお友達遊び相手はどなたでしたか。

（例えば　母親，近所の子供など）

（　　）

C．学童期（小学校入学から現在まで）

(1) その頃お仕事をおもちでしたか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方は具体的に仕事の内容を御記入下さい。

（　　）

(2) 育児や教育の相談相手はどなたでしたか。

（母父母，父，近所の人，医者，保健婦，学校の先生，その他（　　））

(3) その頃遊びや勉強の相手を十分にできたと思いますか。（ハイ，イイエ）

"イイエ"と答えた方はなぜできなかったとお思いですか。

（　　）

(4) 家の手伝いをさせていますか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方はその内容を御記入下さい。

（　　）

その手伝いは（毎日，時々，ごくたまにさせる）

5. お父さんについてお答え下さい。

A．乳児期（出生から満1歳頃まで）

お父さんは次のようなことをよく手伝いましたか。

ミルクをのませる。（ハイ，イイエ）

おしめをかえる。（ハイ，イイエ）

だっこをしたりあやす。（ハイ，イイエ）

おふろにいれる。（ハイ，イイエ）

B．幼児期・学童期（1歳から現在まで）

(1) お父さんは次のようなことをよくしますか。

遊んだり相手をしてあげる。（ハイ，イイエ）

おふろに一緒に入る。（ハイ，イイエ）

食事を一緒にする。（ハイ，イイエ）

(2) お父さんはしつけに対してはどうでしたか。

（厳格的，普通，無関心）

(3) お父さんはしかるときにたたくことがありますか。

（全くたたかない，時々たたく，よくたたく）

6.(1) 夫婦仲については円満だと思いますか。（ハイ，イイエ）

(2) 子供さんの前で夫婦げんかをしますか。

（殆どしない，することもある，よくする）

7. 兄弟姉妹のいる方のみお答え下さい。

(1) 対象となる子供さんは，他の兄弟と比べて手がかかりましたか。（ハイ，イイエ）

(2) 他の兄弟と能力，その他でよく比較することがありますか。（ハイ，イイエ）

(3) 兄弟げんかをした時に平等にしかりますか。（ハイ，イイエ）

(4) 他の兄弟とくらべて，いろいろな面で区別することがありますか。（ハイ，イイエ）

"ある"と答えた方は，具体的に御記入下さい。

（例えば　長男だから全ぺてに優先する，女の子だから勉強はほどほどになど）

（　　）

8.(1) お母さんは対象となる子供さんと親子関係がうまくいっていると思いますか。

（ハイ，イイエ）

"イイエ"と答えた方は，何がうまくいっていないと思いますか。具体的に御記入下さい。

（　　）

(2) 対象となる子供さんは学校であった事や，友だちの事などよくお母さんに話しますか。

（ハイ，イイエ）

(3) 外に遊わせたり，習い事をさせたり，家庭教師をつけたりしていますか。（ハイ，イイエ）

"ハイ"と答えた方は具体的に内容を御記入下さい。

（　　）

(4) 現在，対象となる子供さんについて心配な事はありませんか。（ある，ない）

"ある"と答えた方はその内容を具体的に御記入下さい。

（　　）

(5) お母さん自身のしつけについてどう思いますか。

（例えば，きびしすぎる，忍耐型，教育ママ，放任などとお書き下さい。）

（　　）

(6) どういう子供だと思いますか。

（例えば，素直な子供，物好きな子供などとお書き下さい。）

（　　）

(7) お母さんはどういう子供に育って欲しいですか。具体的にお書き下さい。

（　　）

9. 子供さんの将来についてお答え下さい。

(1) どの程度の教育をうけさせたいと思いますか。

（中学，高校，大学，専門学校）

(2) 将来，嫁果て暮らしてほしいと思いますか。

（ハイ，イイエ，どちらでもよい）

(3) 一緒に住みたいと思いますか。

（ハイ，イイエ，どちらでもよい）

(4) どんな職業についてほしいと思いますか。具体的に御記入下さい。

（　　）

母親 ------ 数字を○で囲んであるのが母親の数値

子 ——— 囲んでない数字は子どもの数値

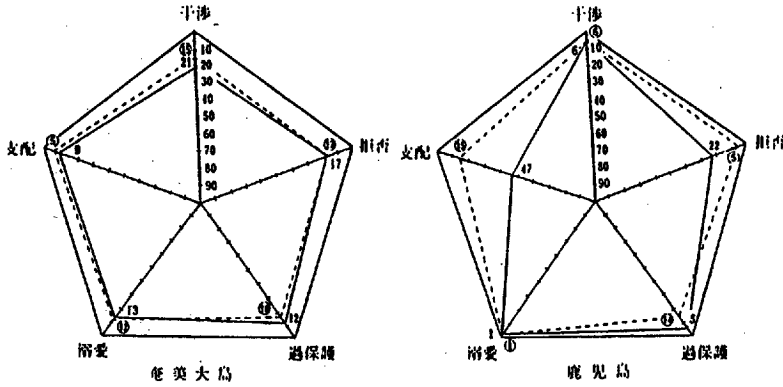


図1　母子関係のプロフィール

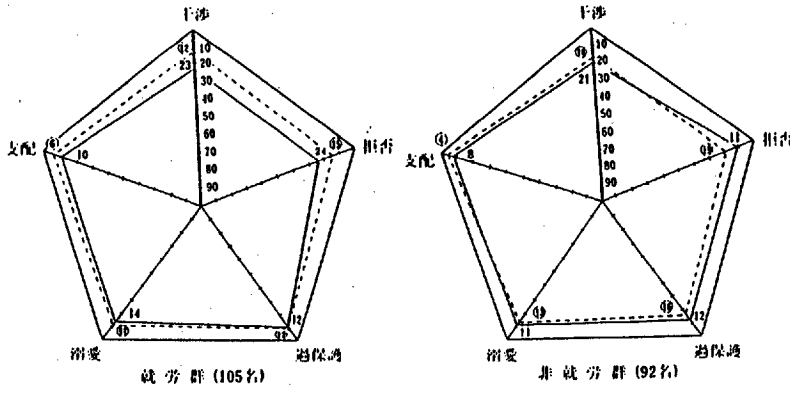


図2　母親の就労の有無別にみた母子関係プロフィール

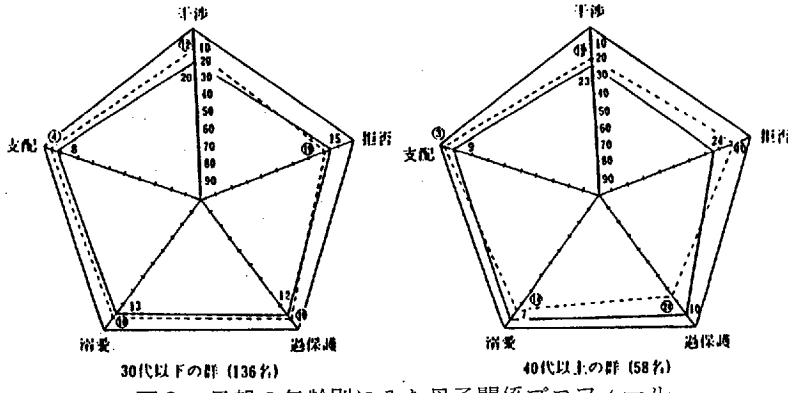
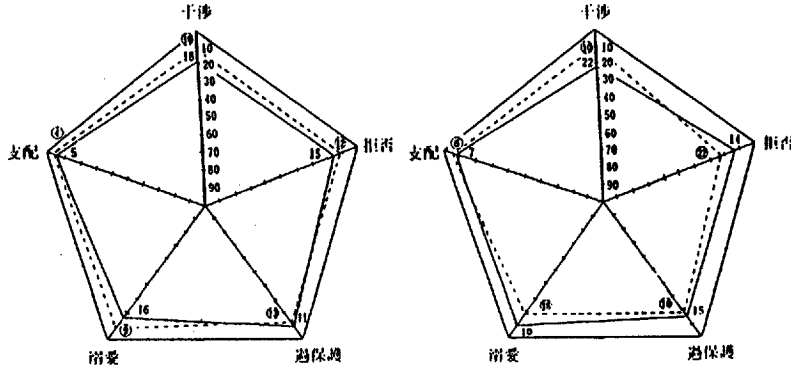


図3　母親の年齢別にみた母子関係プロフィール

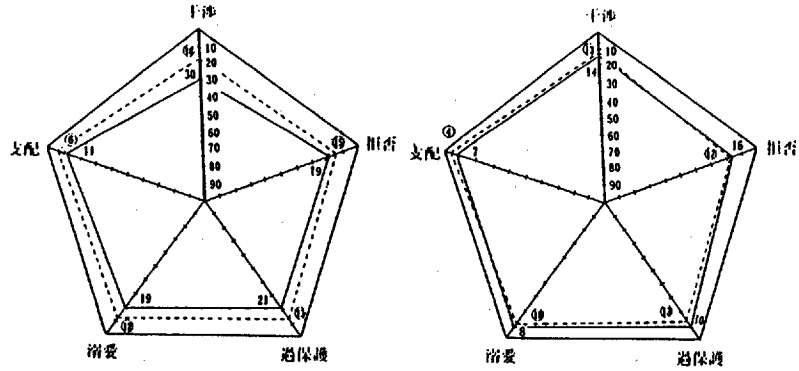
母規 ------ 数字を○で囲んであるのが母規の数値

子 ——— 囲んでない数字は子どもの数値



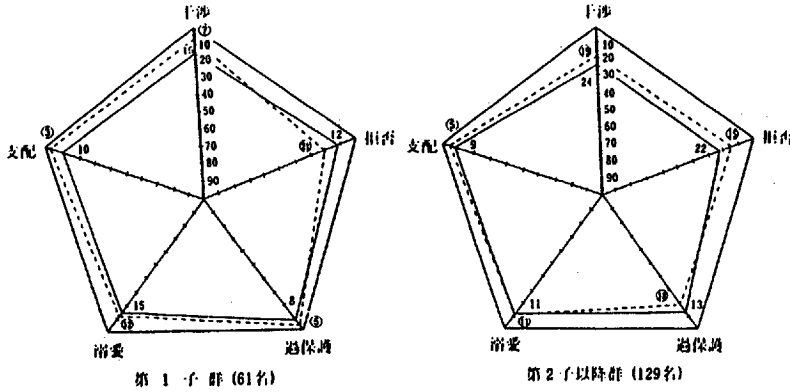
母乳栄養群 (98名)　　人工栄養群 (39名)

図4　栄養法別にみた母子関係のプロフィール



男児群 (106名)　　女児群 (107名)

図5　子どもの性別にみた母子関係プロフィール



第1子群 (61名)　　第2子以降群 (129名)

図6　出産順位別にみた母子関係のプロフィール

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

まえおき

子どもの心身の健全な発育に大きな影響を与えるのは、母親であることは古今東西の真理である。その母親と子どもの関係は、地域特殊性の中にありながらも、時代の変化とともにかわってきている。結婚をして家庭に閉じこもり育児と家事にのみ専念する母親から、社会的に活動したり職業に従事する母親への変遷はその数を増しつつあり、子どもにとって母親の位置も変りつつあることも当然であろう。封建性の強いと言われてきた鹿児島県も例外ではない。鹿児島は離島が多く、そこには古い日本の母子相互関係の原型が残されているかもしれないとの考えから、私どもは奄美大島の小学校でアンケート調査および田研式親子関係診断テストを実施した。その全体的集約をここに報告する。